

久留米大学を受診した患者さんへ

「院内感染症コンサルテーションにおける外科コンサルト症例の検討」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料（情報）を使用します。

- 1) 期間：2014（平成26）年4月から2015（平成27）年9月
- 2) 受診科：感染制御科
- 3) 対象疾患名：入院中に感染症コンサルテーションを受けた症例
- 4) 使用する試料（情報）：診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：感染制御学
 研究代表者：教授 渡邊 浩
 研究分担者：助教 八板 謙一郎
 講師 升永 憲治
 薬剤部副主任 酒井 義朗

2) 研究の意義と目的：現在感染制御科は院内全ての診療科からのコンサルテーションを受け、また血液培養陽性症例への介入を積極的に行っております。中でも周術期の発熱症例相談を多数受けております。これらの症例は手術に関連した創部感染だけでなく、院内での一般的な感染症（肺炎や尿路感染症、カテーテル関連血流感染など）も多く、内科的な鑑別診断、マネジメントを必要とします。これらの症例を解析することによって今後の円滑な感染症コンサルテーションへ繋げることが目的です。

3) 研究の方法：記述統計によって症例の傾向（コンサルト理由、診断名、起因菌、基礎疾患、術後の発熱までの日数や年齢、性別、診療科、手術術式、麻酔方法、中心静脈カテーテルや尿道バルンの有無）を明らかにします。

4) 研究期間：平成27年10月倫理委員会承認後～平成32年9月30日

5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：当診療科は院内各部署からコンサルテーションを受けているので症例が単診療科に偏ることがないことによります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：名前、イニシャル、住所、正確な入院の日付について記載はしません。

7) 研究成果の発表の方法：学会や論文形式で発表します。

8) 利益相反：特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）久留米大学病院感染病学講座 助教 八板 謙一郎

（住所）久留米市旭町 67

（TEL）0942-35-3311 （FAX）0942-31-7826